

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [35211] 抗酸菌同定《質量分析法》

#### 受託開始日

- 平成29年4月1日(土)



## 抗酸菌同定《質量分析法》

結核の罹患率は14.3人(対10万人、2015年)と近年減少傾向にあります。年間およそ19,000人が発症し、約2,000人が死亡するとされる未だ重要な感染症の一つです。

しかし一方で非結核性肺抗酸菌症は増加しつつあります。非結核性肺抗酸菌症の起原因菌として、MAC (*Mycobacterium avium* complex) が約80%、*M.kansasii* が10%を占めるといわれ、主要な菌種だけでも罹患率が14.7(2014年)と報告されています。

また、非結核性肺抗酸菌は結核菌のようにヒト-ヒトの感染はありませんが、環境中に存在する菌で、感染初期から不顕性に推移し、時には10年以上もの長い年月を経て進行しますが、結核のように急速に悪化することは少ないとされています。

結核菌は塗抹検査や小川培地による培養・同定検査に始まり、現在ではPCR法やDNA-DNAハイブリダイゼーション法(DDH法)などによる遺伝子学的検査も多く用いられています。しかし現在、抗酸菌属は170種以上あるとされているうち、検出可能なのはPCR法で結核菌群やMACを含め数菌種、DDH法でも18菌種にすぎません。

本検査はMALDI-TOF MS(マトリックス支援レーザー脱離イオン化-飛行時間型)技術を用いた質量分析法により、細菌のもつタンパク質をイオン化し、マススペクトルパターンから菌種を同定するものです。本法では159菌種の抗酸菌を高感度・高精度に同定することが可能であり、ヒトに病原性を持つものを始めとし、ほとんどの菌種を網羅的に検出することが出来る画期的な検査法です。

結核と非結核性肺抗酸菌症では治療法なども異なり、さらに非結核性肺抗酸菌症の中でも起原因菌により抗菌剤の選択にも差異が生じます。したがって本検査により起原因菌を正確に同定することは、治療計画を立案するために大変有用な検査と考えられます。

なお、質量分析法による抗酸菌同定検査は『結核菌検査指針2007』から9年振りに改訂された『抗酸菌検査ガイド2016』にも掲載されています。

### 検査要項

項目コード	35211
検査項目名	抗酸菌同定《質量分析法》
検査材料/保存方法	呼吸器材料/その他 / 冷蔵(凍結不可) または培養陽性判定後の増菌(3~4週間) 菌株 <sup>*1</sup> / 常温 ※「呼吸器材料/その他」の場合は予め抗酸菌培養と抗酸菌同定検査の両方を併せてご依頼下さい。
検査方法	質量分析法
所要日数	1~5日 <sup>*2</sup>
検査実施料	370点 <sup>*3</sup> ([D021] 抗酸菌同定)
判断料	150点(微生物学的検査判断料)
備考	*1: 菌株でご依頼の際は、所定の保護ケースをご利用の上、常温保存にてご提出下さい。保護ケースは、予め担当営業員にお申し付け下さい。 *2: 所要日数は同定検査に要する日数です。増菌培養の日数は含まれません。 *3: 検査方法、培地数にかかわらず、1回のみ所定点数を算定します。「MAC 核酸検出」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

### 参考文献

鈴木弘倫, 他: 臨床と微生物 43(5): 423-426, 2016.

赤松紀彦, 他: 化学療法の領域 31(増刊号): 996-1003, 2015.